



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン：経済状況

(7月2～3日付現地各紙)

1. EUによる対イラン制裁への対応 (2日付テヘラン・タイムズ紙)

ガーセミー石油大臣は、EUによるイラン石油産業に対する制裁に対し、対抗する準備をしていると述べた。「イラン産原油は自国に市場を有している。また、制裁への対抗措置として全ての選択肢が政府によって計画されている」とした。

2. 韓国によるイラン産原油輸入の検討 (3日付イラン・ニュース紙)

韓国は、イラン産原油輸入に関し、イランが保有する原油タンカーの使用についてイランから打診を受け、現在検討している。韓国政府筋は「イラン船籍のタンカーを使用することは、国際的に禁止されていない」としており、検討が進めば、韓国はイラン産原油の輸入を今月末か来月初旬に再開できると述べた。

3. SWIFTに代わるSEPAMシステムの稼働計画 (2日付ハムシャフリー紙)

イラン中央銀行(CBI)のバフマーニー総裁は、SWIFTに代わるシステム「SEPAM」を今週中に稼働させると発表した。「SEPAMは重要なインフラ計画であり、銀行間で接続することで全てのSWIFTの機能を引き継ぐことができる」と述べた。また、同総裁は、制裁に対抗する方策について述べ、「イランの原油収入は1,000億ドル以上、非原油輸出による収入は400億ドルあり、この合計1,500億ドルの外貨収入をもって制裁に立ち向かう」とした。

4. ガソリン増産に関する石油省次官の発言 (3日付イラン・ニュース紙)

ゼイガミー石油省次官は、2013年3月までに自動車排ガス規制であるEURO-4基準のガソリンを増産し、日量2,400万リットルとすることが可能であると発表した。また同次官は、115億ドルをガソリンの品質向上に、21億ドルをガソリン生産プロジェクトに予算配賦しているとも述べた。

5. 物価上昇に関する内務大臣の発言 (2日付ハムシャフリー紙)

農業・開発推進省や商業・工業鉱山省が市場での物価上昇を止められない中、内務省がこのゲームに参入してきた。ナツジャー内務大臣は「各担当大臣は自らのルールに基づき市場の要求に応えなければならない。市場は常に監視される必要がある、我々は物価上昇に慣れてはいけない」と述べた。また、ナツジャー大臣は、ラマダーン時のさらなる物価調整

の必要性にも言及しつつ「統計上は十分な物資が市場に存在しているが、一部の人々の憶測や強欲が物価を上昇させている」とした。

6. トルコ国内でのイラン銀行による取引（3日付イラン・ニュース紙）

トルコのユルマズ開発大臣が、全てのイランの銀行は現在、トルコ国内での取引を制限されておらず、仮にイランの銀行がトルコ国内に支店を開設しようとしても差別されることはないと言明した。

7. インドなどからの小麦の輸入（3日付イラン・ニュース紙）

イランは備蓄増強のため200万トンの小麦を輸入した。「これだけ大量に小麦を輸入したのは、戦略備蓄のためである」と政府高官は述べている。6月中旬にイランの代表団は、インドからの小麦輸入を検討するためインドを訪問している。インドは現在、世界第二位の小麦生産国で、イラン向け輸出についてはFOB価格で1トン当たり280ドルを提案しており、パキスタンの290～300ドルよりも安い。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799